

パイロットプロジェクト ニーズ調査 ～フィリピン～（2016/2/15-17）

災害統計グローバルセンターでは、グローバルデータベースの構築に先立ち、東南アジア地域の5ヶ国程度に対してニーズ調査を実施し、途上国ニーズに合わせた支援を検討しています。

2016年2月15日から17日にかけて、小野裕一教授と伊藤拓也研究員がフィリピンのマニラを訪問し、国家災害リスク軽減管理評議会（NDRRMC）、気候変動対策委員会（CCC）、UNDP現地オフィスとの協議・意見交換を実施しました。今回の訪問の主な目的は、フィリピンの災害統計整及び活用における課題やニーズを把握し、災害統計グローバルセンターとパートナー機関が連携して実施可能な支援を検討することでした。また、災害被害統計を当センターで構築予定のグローバルデータベースに取り込む際に必要な手続きに関して確認しました。

フィリピンでは、関連省庁を集めたワーキンググループで、仙台防災枠組のモニタリングに向けて必要な活動と支援や災害被害情報の活用に関する議論が行われています。今後、同国内の災害被害データ整備・分析・活用に関して連携して取り組むことで合意しました。



ワーキンググループ会合



ワーキンググループ会合集合写真



NDRRMC 前にて：小野教授